

J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



今年の夏は、豪雨と土砂災害で大変でしたね。皆さんの地域は被害などなかったでしょうか？ 普通に暮らせることが幸せなんだなって、気づかされま
すね。

さて今月は、伊藤千春先生からのメッセージをお届けいたしま〜す。



世話人・幹事からのメッセージ

「悪性腫瘍とCKD-MBD」

自治医科大学 腎臓内科
伊藤 千春 先生

自治医科大学附属病院では、ここ数年で年間130人程度の症例が新規に透析導入され、高齢者の割合も多い為か、透析導入時に担癌患者を目にすることも少なくはなかった。中には末期癌の方もおり、当該科主治医と共に透析導入後のケアについて慎重に配慮していくことも透析業務の一つとなっている。悪性腫瘍を抱えつつ、さらに心血管系疾患や感染症で、透析導入から何度となく入退院を繰り返す症例も増えていると思われる。その負担を考えると、自身で同じような境遇に陥った場合、どのような心境になるのかは想像もできない。

悪性腫瘍とCKDの因果関係については、本邦では最近の詳しいデータがなく、2008年初めから2013年末までの自治医科大学附属病院での透析導入患者の悪性腫瘍合併について調べることとした。結果はClinical Experimental NephrologyのLetter to Editorに掲載させていただき、透析導入患者の既往と透析導入時に、悪性腫瘍の中でも胃癌を上回り、大腸癌の診断症例が共に一番多いという結果であった。CKD全体ではないことや、単施設の結果であるので正直に言えば心もと

なく、多施設で集計し、症例数が多くなった場合にどうなるかが問題ではあるが、何らかの要因が関係しているのは確かだろうとは思う。

何故大腸癌が多いのか調べてみると、賛否両論はあるが、最近の複数の疫学調査では25(OH) D3不足は大腸癌のリスク因子となり、また、台湾の報告において、非透析CKD症例では大腸癌の危険度が高いという結果も出ている(Ann Surg Oncol 20:3885-91, 2013)。ビタミンDのCa, P代謝以外の多面的作用については十分解明されていないものもあるが、病因の一つとして、大腸癌細胞のビタミンD受容体遺伝子変異の解析についても活発に行われている。

日常臨床では、CKD症例でのビタミンD不足を容易には実感できないので、そこに更に別軸を置くことには若干の違和感を禁じ得ないのだが、CKD-ビタミンD-大腸癌を結びつけるコホート研究はこれまでないことから、他力本願ではあるものの、今後の検討結果が待たれる。また、J-DAVID研究では維持血液透析患者の心血管イベント、生命予後がエンドポイントだが、今後新たな研究で、対象を保存期CKDとし、エンドポイントとして他の疾患についても拡張できれば、興味深いかもしれない。



最近の文献から

ビタミンD充足状態と血圧・高血圧リスク:メンデル・ランダム化解析

Association of vitamin D status with arterial blood pressure and hypertension risk: a mendelian randomisation study

Vimalaswaran KS, et al.

Lancet Diabetes Endocrinol. 2014 Jun 25. pii: S2213-8587(14)70113-5. doi: 10.1016/S2213-8587(14)70113-5.

【ポイント】血漿25(OH)D濃度低値と高血圧が関連することが知られているが、因果関係は不明であった。本研究では108,173人のデータを用い、メンデル・ランダム化解析により因果関係について検討している。

【詳しくは】<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/24974252>

最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(8月27日現在)

症例報告書回収状況報告

	観察開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目
前月	976	932	923	878	828	782	702	590	365	274
今月 (前月比)	976	932 (-)	923 (-)	878 (-)	838 (+10)	790 (+8)	703 (+1)	590 (-)	374 (+9)	282 (+8)

内容確認書（クエリー）回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目	コンプライアンス	中止時	脱落基準	SAE (イベント含む)	総数
発行	1136	773	618	636	602	533	509	371	222	160	1304	153	25	210	7252
回収	1136	765	608	623	578	500	441	307	167	119	1246	146	23	183	6842
回収率 (%)	100.0	99.0	98.4	98.0	96.0	93.8	86.6	82.7	75.2	74.4	95.6	95.4	92.0	87.1	94.3

J-DAVIDデータセンターからのお知らせ



担当者の異動があればご連絡ください

J-DAVIDご担当の先生が退職される、あるいは担当を外れる等何らかの異動が発生した場合は、データセンターまでその旨お知らせください。

36ヶ月、42ヶ月観察の症例報告書をご提出ください

2014年4月4日時点で、全登録症例の36ヶ月までの観察目安日が経過しております。未提出の症例報告書があるご施設様は、早急にご送付くださいますようお願いいたします。お手元に残っている場合は速やかにご確認ください。

内容確認書（クエリー）をご回答ください

内容確認書（クエリー）の回答がいただけていないご施設様がございます。ご回答をお願いいたします。ご不明な点がございましたらJ-DAVIDデータセンターまでご連絡ください。コンプライアンス確認票をお送りしているご施設様で回答方法がご不明な場合もご連絡ください。ご協力の程宜しくお願いいたします。

編集・発行：J-DAVID研究会事務局
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分秘病態内科学 内
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808
J-DAVID試験データセンター
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

J-DAVIDのホームページ
<http://j-david.info/>